



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2009.2

No. 298

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



## 講演『フィールドガイド日本の野鳥』(前編)

昨年末の講演会は、野鳥イラストレーターの谷口高司氏をお招きして、氏を育ててきた図鑑の思い出、図鑑作成の仕事及び増補改訂版『フィールドガイド日本の野鳥』に携わった時のお話等、原画を拝見しながら伺いました。今月号はその話の前編です。

**みなさんは鳥の図鑑を何冊お持ちですか。**

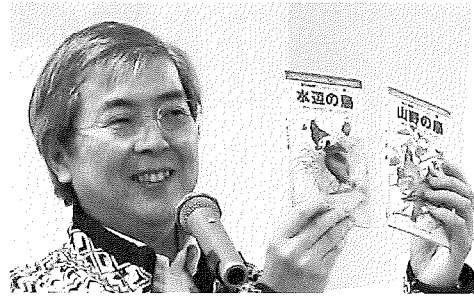
図鑑というものは1冊持つと次々と欲しくなるものようです。私(谷口)は200冊ちょっとですが、あるアンケートの結果を見ると300、400冊という人もざらのようです。しかし、親しくしているNさん曰く「何百冊なんて数えるのは素人だよ。メートルで数えるんだよ」とのこと。「じゃあ何メートル持っているんですか」と尋ねたら「それはうちの奥さんに知られるとまずいから内緒」。彼の知り合いで昆虫の本を集めている方は1.6キロメートルだそうです。

図鑑にも**写真の図鑑**と**イラストの図鑑**があります。どちらがお好みですか。

写真の図鑑はバックに環境も写り込んでいますのでその鳥の雰囲気がよく分かるんですね。イラストの図鑑はその鳥の特徴を全部、実際には見えない角度のものまで描いてありますので鳥の識別をするときにはとても使いやすい。それぞれに一長一短があります。

**私は昭和22年の生まれです。**初めて出会った図鑑は父が買ってくれた図鑑で、北隆館の『原色少年動物図鑑』でした。その中に鳥の絵を描いた方は小林重三(こばやし・しげかず)という鳥の絵の方では非常に優れた画家でした。今「親父偉いな」と思うのは、適当なイラストの図鑑を与えないで、そのようなしっかりしたものを買って与えてくれたということです。その後、鳥の図鑑として父が買って来てくれたのは、今の講談社から出た『鳥の生活』です。これがまた小林重三さんの絵を使っていました。

その頃は特に虫が好きでした。虫は実際にさわったり、羽や足をむしっちゃったりできる。むごいようですがこうして逆に命の大切さを覚えていく、子どもは虫とつきあう時期がなければならないと思っています。



それは同時に虫を食べて生きていく鳥の暮らしにも目を向けていくきっかけにもなります。

ところで、私の父は東京の杉並区で戦前から理髪店を営んでおりました。そこのお客さんに日本野鳥の会の創始者中西悟堂さんがいらっしやいました。それから日本野鳥の会の草創期にお手伝いをされていた山谷太郎さん、この方は脚本家の倉本聰さんのお父さんですね。この方もお客さんでみえていました。このような方々がお客さんでいらしていた関係か、中西悟堂さんがお書きになった本がなんだか家にごろごろあったんですね。そんなこともあってだんだん虫から鳥にもシフトする。それでも高校までは昆虫の中の蛾を採っていたんですけども、早稲田大学に入ったら、大学に入ったと言うよりサークルに入ったようなものでしてね、「生物同好会」です。そこはとても鳥の観察の盛んなところでして、先輩に近辻宏帰(ちかつじ・こうき)さんという方がいらっしやいました。佐渡島に渡って佐渡トキ保護センターで活躍されてきた方ですね。それから北海道根室の風露荘ご主人、の高田勝さん、そういった方々に鳥を仕込まれました。

その頃使っていた図鑑が小林桂助著『原色日本鳥類図鑑』でした。野外で使うには難しい面がありました。ところがある時、アメリ

カのロジャー・トリー・ピーターソンが著した『Field Guide to the Bird』を見ることがありました。これは野外で見たまんまの姿、上面、下面、飛翔図、卵が描いてある。「ああ、日本にもこんな図鑑があればなあ」という気持ちでしたねえ。

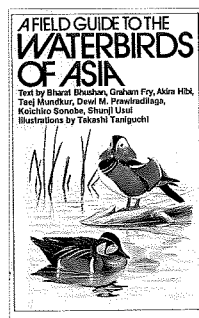
そのうち、高野伸二さんが早稲田の生物同好会によくいらっしやるようになりまして、軽井沢に一度連れて行ってもらいました。本当によく知っている方で、地鳴きをちょっと聞いただけであれば何々だよ、と教えてくれる。しかも、偉いなど思ったのは、分からないものは分からないとおっしゃることなんです。それはまたすごいことだなと思いました。あれだけ鳥を知っている方なのに威張らない。素晴らしい方でした。

次に高野伸二さんと柳澤紀夫さんが著し、鳥類保護連盟から2分冊で出た『野外観察用鳥類図鑑 正・続』です。読む図鑑といわれました。絵は少なく、読むところが多いんです。文章で識別するのですけれどそれもまた非常に参考になりました。

そのうち卒業する時期が来ました。父の理髪店は中学生の頃から手伝っていました。もしかしたら、就職するよりはおもしろいことができるかもしれないと考えて（それはなかったんですが）、内定していた会社に断りを出しまして、理容師の免許を取って店を手伝い始めました。

鳥を見るのはやめませんでした。しかし、店は月曜日が休みです。土日の探鳥会に出られないわけです。それで月曜に野鳥の会の事務局に遊びに行くようになりました。そこに小学校の同級生のIさんが勤めていて、また、東京支部もそこに同居していて大学の後輩のSさんが編集をしていたんですね。ある時、Sさんからハクセキレイのカットを頼まれました。その後、それを見たIさんから『野鳥』誌のいろんなカットを任されるようになりました。

ある日、高野さんに「ちょっと、たにばん(私のこと)。喫茶店につき合えよ」と呼ばれました。「今度ね、決定版図鑑(後の『フィールドガイド日本の野鳥』、以下『FG』と略す)



というものが出る。文も絵も僕がかくようになった」「同時に『山野の鳥』『水辺の鳥』(以下『山・水』と略す)も新しい版(P2写真参照)にかえるらしいんだけど、そちらまで手が回らない」「そこで絵は君を推薦しといたから、たにばん、絵を描け」「うん、でも」「もう、そういう話しになってるよ」・・・。

描くにあたっては、貯金を下ろして商業美術の通信教育を受けました。それはピーターソンさんが、もともと商業美術の出身の方なんです。コマーシャルアートをしながらバードウォッチャーとして活躍していたので、それらが結びついて素晴らしい図鑑になりました。それにあやかっって商業美術を勉強しました。そして1年半かかってできました。

喫茶店では高野さんに画材のことも教わりました。「僕はね、ちゃんと藪内正幸さんに教わっているよ。たにばんも同じものを使うといいよ。絵の具はね、ドイツ製の□□社の固形の不透明水彩絵の具。紙はね、△△ケントの目の細かいのがいいんだよ」。それ以来、ずっと同じものを使い続けています。藪内さんもそれを使い慣れていましたし、高野さんも亡くなるまで使っていました。私は、高野さんに教わったということで他の絵の具を使う気にはなりません。これからも使い続けます。

さて、一番多い質問は「1羽描くのどれくらいの時間がかかりますか」です。答えは無いんですよ。30分で描けるときもあるし、4日かかっても描けないときもあります。その鳥を調べるだけで2、3日かかってしまう時もある。描き始めればだいたい1時間以内で描くように努力はしています。

描き方の順番もよく聞かれます。先ず、下調べ。いろいろな文献を集めて読むことから

始めます。それ以前の段階で野外に出て見ておきます。しかし、50年も前に1羽だけ現れたような鳥は、外国に写真があるときはそれを取り寄せます。そして下書きの段階で、ここはどうだ、あそこはどうだと線を入れて細かくポイントをかいたものを作ります。ここで困ることがあります。本によって書いていることが違うことがかなりあるんです。英語でも色の名前が本によって違ったりします。日本語に置き換えても何色か分からない。例えばhorn-collar(角の色)、よく嘴の色に使われていますが、よく分からない。

次に色を塗っていくんですが、ここまでで80%ぐらい手間がかかっているわけですね。あとの20%に1時間ぐらいかけて仕上げる、というやり方でやってきました。

『山・水』は、これで野鳥の会員が増えたと言われていまして、私もとても喜びました。

『FG』は1982年に出て、高野さんはその2年後には亡くなっています。図鑑というものは大勢の人が使っているうちに進化するんですね。最初描いたときはすばらしい絵だったんですけどちょっと経つと情動的に古くなってくる。だいたい10年ぐらいで増補、あるいは改訂していかなければならない。新しい図鑑が出てきますとバードウォッチャーも増えてきますし、鳥を見る目が増えるといういろんな情報も増えてきます。増えた情報をどんどんつっこんで行かなければならない。それで1989年に『FG』の増補版が出版されています。絵は『山・水』の経緯から私が描くことになりました。これは図鑑の後ろに31種類をくっつけるだけなので、なんとかこなせました。しかし内心、高野さんという偉大な方の本に私の絵がくつつくというのは多少申し訳ないという気持ちもありました。

それに引き続き台湾から日本野鳥の会に図鑑の話が来ました。台湾の鳥は400種ぐらい、そのうち日本にいないのは百何十種。それを描くのをどうしようかと思いました。ところが台湾の方は非常に熱心で、とにかく最初の渡台では4日しか行けなかったのに、特産種のいるところを全部案内してくれました。標本も山ほど見せてくれて、動物園にも連れて

行き、生きた状態の鳥をたくさん見せてくれました。そのおかげで資料も集まり、日本に帰ったあとは一生懸命描きました。それでも完成まで4回渡台しました。

実は、鳥を見るとき一番見なくてはならないものは色なんですね。写真だと同じページに写っている同じ鳥でも色が違って出ているときがあります。ともかく色に注意し、4年かかって1991年に『台湾野鳥図鑑』ができました(P3写真参照)。

その時、台湾全土で野鳥の会会員は850人。鳥を見る人が少ないということは鳥を保護する人が少ない、守る力がないということです。それが1991年に図鑑が出て、2005年に13,574人。人口は日本の5分の1だからその割合で行くと65,000人。支部も3から19に増えています。その後もどんどん増え続けているんです。

これは図鑑の力が大きかったんですね。どうして図鑑を作ると鳥を見る人が増えると思います？ まず、作る段階で間違ったものを作ってはいけなくて鳥をよく知る人が増えてきます。識別ができる人が増えます。保護のための正しいデータが取れるようになります。また、この図鑑の場合は、台湾全体のいろんな鳥の団体の資金源としても使ってもらいました。それで保護側の力がうんとつきました。その意味で、私にとって『台湾野鳥図鑑』の仕事は、『山・水』とともにとっても大切な仕事になっています。

そのあと引き続き、『WATER BIRDS OF ASIA』(P3写真参照)や韓国の図鑑と描かせて頂きました。残念ながら韓国では出版の形態が違ったため、台湾のような劇的な効果は今のところありません。

さて、今まで日本野鳥の会さんにお世話になりながら仕事をしてきたわけですが、2000年の韓国の仕事のあとに私の人生にとって、重い、大変な仕事がありました。何かというところ『FG』の増補改訂をしたいというお話を頂いたんですね。・・・

(谷口さんのお話はまだまだ続きます。3月号では、高野さんの絵に直接筆を入れる時の心境などを話されます。編集部)

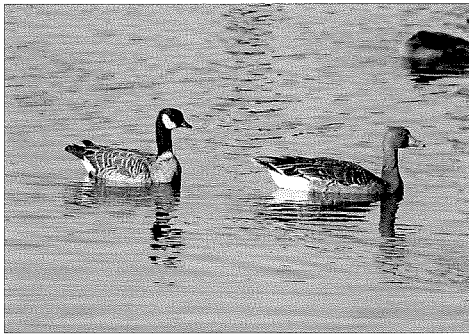


## 野鳥情報

**北本市北本自然観察公園** ◇10月29日、アオジ、今季初認。アリスイの声がしたので探したが見つからなかった。その他、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カケス、バン、オオバン、ジョウビタキ、ガビチョウ、コゲラ、メジロ、モズなど（長嶋宏之）。

**吉見町八丁湖** ◇10月30日午前10時頃、来ました、来ました。ジョウビタキ♂が尾を振りながら歓迎してくれました。今季の初認です。沼にはマガモ25羽、キンクロハジロ2羽。本格的な冬鳥シーズンの到来です。カイツブリの親が2羽のヒナに小魚を与えているのも確認できました。いつも見るカワセミが「チー」と鳴きながら水面すれすれに飛翔。今年はどうな鳥に会えるか楽しみです（阿部義裕）。

**蓮田市城沼公園** ◇11月10日、ツグミ3羽が梢にいた。この公園で今季初認。今年ツグミが早い。11月13日、オオタカが東から西に通過。オナガの叫びが騒がしくなったと思ったらハイタカ？が屋敷林に飛び込んだ。その他、アオサギ1羽、カイツブリ1羽、ツグミ8羽、ウグイスとアオジの地鳴き。11月14日、右足の指が無いハクセキレイの若鳥がいた。左足でけんけんしては、たまに右足をつけて休み、採餌していた。何時までも元気に生き延びられるよう願う。2羽のカラスにモビングされるタカが1羽。下面はかなり白く、翼の形状から一見ノス



12月7日渡良瀬遊水地への途中立ち寄った群馬県板倉町いずみの公園池で、シジュウカラガンとマガン各1羽（荒井彦一）

リのような。上面の翼に大きな白斑があった。まさかケアシノスリ？ 11月19日、数羽の小鳥が飛び去った後、3羽梢に残った。橙色が鮮やかなアトリだった。この公園で今季初認。11月22日、竹やぶからコジュケイの「コーコー」という声が出た。じっと見守ると幼鳥5羽が1羽の親鳥に連れられて移動していた。散歩の人に「野生です」と教えるとびっくりしていた。ツグミ70羽士の群れが東から西に飛ぶ。今年ツグミが多いようだ。11月25日、カワウが竿になって8羽、南西から北東に飛んだ。元荒川から東武動物公園の時に帰るようだ。12月10日、ミヤマガラス50羽士がハシブトガラスに追われて西に流れた。この地域でのミヤマガラスの初認（長嶋宏之）。

**JR鴻巣駅付近** ◇11月11日午前7時20分頃、ツグミの声を聞く。今季初認（榎本秀和）。

**坂戸市浅羽ビオトープ** ◇11月12日、ビオトープ内水路でクイナ1羽、カワセミ♂1羽、カルガモ、コガモ。排門前ワンドのアシ原にベニマシコ♂2羽♀1羽。ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、シメなどの冬鳥もあちこちで見られた。珍しくアカハラも。ネムの木広場から高麗川対岸の木に、オオタカ幼鳥1羽。中州にキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ。他にカイツブリ、カワウ、アオサギ（増尾隆）。

**坂戸市中里** ◇11月14日午前8時10分、高麗川中里堰左岸でオシドリ♂1羽。11月18日には同所護岸斜面で、コガモ15羽と休んでいた。14日と同一個体のオシドリと思われる。1時間ほどして水面に下りた。美しい冬羽だった（坂口稔）。

**坂戸市泉町** ◇12月9日午前8時50分頃、高麗川戸口橋そばの右岸高木に、アトリ約30羽が止まっていて、時々群れで飛び上っては元の木に戻る行動を繰り返していた。12月13日午前9時30分頃にも同所にいた。同じアトリの群れと思われる（増尾隆）。

**白岡町元荒川八幡橋下流** ◇11月13日、ユリカモメ1羽、この場所で今季初認。他にコサギ8羽、ダイサギ1羽、コガモ35羽、カ

ルガモ26羽、ハシビロガモ(エクリプス) 7羽、イカルチドリ 6羽、セグロセキレイ 1羽(長嶋宏之)。

**久喜菖蒲公園昭和沼** ◇11月13日、ゴイサギ60羽土、キンクロハジロ80羽土、オオバン12羽、ヨシガモ♂1羽、アオサギ4羽、コサギ4羽、その他ヒドリガモ、ホシハジロ、オナガガモ、カルガモ、マガモ等多数。釣り人が居なくなった釣り桟橋上をハクセキレイとバンとコガモが釣り人の残した釣り餌を食べていた。12月11日、ハヤブサが水面すれすれに東から西に飛び抜けたが、湖面のカモはさして驚かなかった(長嶋宏之)。

**川里町梅ノ木古凍貯水池** ◇11月16日、貯水池西側の田んぼでタゲリ14羽が採餌したり、貯水池の上を飛んだりしていた(細田敦史)。◇11月21日、カンムリカイツブリ1羽、カワウ55羽、カルガモ110羽、コガモ130羽、マガモ60羽、アオサギ18羽、ハクセキレイ12羽、その他コブハクチョウ1羽、ホシハジロ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、オオバン、カイツブリ。周辺の田んぼでタゲリ48羽が周囲を警戒しながら採餌していた(長嶋宏之)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇11月18日、B区土手下農道脇の草むらにハギマシコ1羽。車が通ると飛び立ち、また近くに返っては、草の実を食べていた(海老原美夫)。

**羽生市羽生水郷公園** ◇11月20日、オカヨシガモ♂3羽♀4羽、ヨシガモ♂3羽♀1羽、ハシビロガモ(エクリプス)5羽、アオサギ4羽、ダイサギ4羽、バンの若鳥4羽、オオバン6羽、その他ヒドリガモ、オナガガモ、カルガモ、コガモなど多数。アシ原でオオジュリンの声、柳の木にオオタカの亜成鳥1羽が羽を休めていた。上空で2羽のトビが大きく輪を描いて飛んでいた。三田ヶ谷池で公園の人が2隻のボートで投網を使って調査をしていたのでカモ類が少なかった(長嶋宏之)。

**三郷市大広戸～さつき平一丁目** ◇11月22日、自宅から数百mの雨水調整池～瑞木小学校で、シラコバト1羽。三郷市では、以前は新三郷駅構内でも見られたが、最近はめっ



モズ(大坂幸男)

きり少なくなり、去年は元日に三郷市半田の養鶏場で2羽を見ただけだった。自宅近くでは久々に見られた(高田範之)。

**桶川市ホンダエアポート** ◇11月22日、芝の上でタゲリ約50羽が採餌していた(竹山峯義)。

**桶川市若宮1丁目** ◇11月27日午前7時20分から15分間、60羽以上のマヒワの群れが北方からやって来て自宅北側の落葉の始まった2本のケヤキの天辺にとまって木の芽?を食べていた。11月30日午前10時30分から西口公園の北側のケヤキの天辺で同じ群れと思われるマヒワの群れ30羽ぐらいがなにかを食べていた(立岩恒久)。

**滑川町武蔵丘陵森林公園** ◇11月26日、エナガ、シジュウカラ、メジロの混群がコナラの梢を採餌しながら移動。コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ混群が松の枝で採餌していたが、何か驚いて飛び去った。その後、松の梢で小さい数羽の小鳥がちょろちょろしている。良く見るとキクイタダキだった。その他にキセキレイ、ウグイス、アオジ、ジョウビタキ、シメなど。下生えの中で力強く「ヒツツヒツツ」と鳴いたのはルリビタキ?か(長嶋宏之)。

**宮代町東武動物公園** ◇12月8日、アトリ20羽土、ホシハジロ♂15羽♀3羽、オオバン3羽、ダイサギ2羽、コサギ1羽(長嶋宏之)。

#### 表紙の写真

#### スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

2008年1月吉見町八丁湖。陽春を感じさせる光景でした。  
鶴飼喜雄(深谷市)



## 行事案内



ホオジロガモ♀ (又部綱仁)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に速慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も (なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から

北里メディカルセンター病院行きバス

8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：例年この時期、ルリビタキ、ジョウビタキ、ベニマシコなど、色鮮やかな鳥たちが間近に姿を見せてくれます。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

＜差間コース＞

期日：2月1日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口2番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：チュウヒなどの猛禽類やカモたちが越冬中です。他にどんな鳥たちが潜んでいるでしょうか。

### 狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月7日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:57 発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星、山田(義)、水谷

見どころ：毎年冬の当公園は、林や水辺の鳥が種々観察できます。さて今年は……。

### 嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月7日(土)

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越 7:43 発、または寄居 8:10 発(小川町乗換え)。

担当：後藤、喜多、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、林、栗原、鶴飼、千島

見どころ：あと一月もすれば冬鳥たちは北へ。体力を付けるためでしょうか、朝早くから採餌。その姿を確認しましょう。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：一番寒い時。冬枯れの草原や林の中に鳥たちの気配が感じられます。秩父や赤城の山々をバックにタカ類が飛べば、



寒さなんか何のその。

### さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日（水・祝）

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。  
または午前9時20分、市民の森入口前。  
（土呂駅東口より徒歩約5分）

担当：青木、工藤、藤原、浅見、有馬、松村、  
赤坂、阿久澤（キ）、阿久澤（廣）、金子、舟  
木、山田（東）

見どころ：梅の香が漂う公園内ではコゲラ、  
シジウカラ、モズ達を、公園の外では  
アオジ、カワセミ、クイナ、カモ達を、  
空を見上げては猛禽類を楽しみましょう。

### 戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月12日（木）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパー  
ク中央駐車場。

交通：JR武蔵浦和駅東口2番バス乗り場から、  
下笹目行き8:43発で「道満グリーンパー  
ク入口」下車。交差点まで戻り左折して  
土手を越える。

担当：倉林、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、  
馬場

見どころ：白雪の富士や秩父の山々を眺めな  
がらの探鳥会です。草原の小鳥や水辺の  
カモたち、特にヨシガモに期待します。

### 所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月14日（土）

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前  
駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋（優）、持  
丸、小林（ま）、水谷

見どころ：2月は狭山湖が最も賑わう時期で  
す。カンムリカイツブリの大群が、頬を刺  
す寒風を忘れさせてくれます。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月14日（土）

集合：午前9時30分、森林公園南口前。  
交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学  
行き9:10発バスで「滑川中学校」下車。

ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過  
してください。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：喜多、内藤、佐久間、岡安、藤掛、大  
坂、青山、後藤、山田（義）、高橋（ふ）、  
藤沢、中村（豊）

見どころ：冬鳥たちの見納めの時期に入りま  
す。セツブンソウが見られるかも。疎林  
を抜けて山田大沼まで歩きます。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東  
口、集合後バスで現地へ。または午前9  
時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、  
新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木

見どころ：見沼たんぼが一番寒い時期ですが、  
鳥数は期待できます。12月の例会でアト  
リを初めて観察、出現鳥が118種になり  
ました。普通の鳥を楽しむ三室ですが、  
時々新しい鳥が出ることがあるんです。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つ  
きみ荘」内には駐車できません。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バ  
ス9:10発伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」  
下車。

担当：新井（巖）、倉崎、鶴飼、小池（一）、小  
池（順）、藤田（裕）、小淵、千島、岡田

見どころ：カモ類の減少が著しい坂東大橋で  
すが、毎回小鳥や猛禽類が穴埋めをして  
くれます。今年は何が待っているかな。  
注意：仮設のトイレはありますが、駅などで  
済ませておきましょう。

### 東松山市・物見山探鳥会

期日：2月21日（土）

集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越  
えた右側）。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス



2番乗り場から鳩山ニュータウン行き  
8:53、9:04 発で「大東文化大学前」下車、  
バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、藤掛、岡安、島田、志村、  
後藤、増尾、林、増田、山田(義)、高橋(優)  
見どころ：枯葉を踏んで静かな山里の道を歩  
きます。赤い鳥、青い鳥に会えるといい  
ですね。

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月21日(土)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場  
から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32 発  
で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、立  
岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川  
見どころ：早朝の公園を、冬鳥やカワセミを  
探して歩きます。荒川の土手では、真白  
き富士を眺め、オオタカの飛翔が見られ  
れば最高です。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月21日(土) 午後3時～4時ころ  
会場：支部事務局108号室

### 志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月22日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、  
スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、  
中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、  
杉原、藤沢、山口

見どころ：足元の植物たちは春を待っていま  
す。カモたちはペアを作り恋をささやき  
あっています。ほほえましい姿を見なが  
ら冬鳥の旅立ちを見送りましょう。

### さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月22日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。

集合後バスで現地へ。または午前9時、  
文化公園駐車場(国道16号側)。

交通：東武野田線大宮8:18発柏行き、または

春日部8:18発大宮行きで岩槻下車。

担当：長野、吉安、玉井、田中、石川、長嶋、  
榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：昨年の2月は強風で歩くのにも苦  
勞し、12月は雨天で中止でした。担当リ  
ーダーはリベンジに燃えています。

### 深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月22日(日)

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロー  
タリー。

担当：新井(巖)、小池(一)、倉崎、藤田(裕)、  
大澤、小渕、鶴飼、岡田

見どころ：キクイタダキは、今年も来ていま  
す。暫くご無沙汰のトラツグミに会える  
と嬉しいのですが……。

### 神奈川県・城ヶ島探鳥会(要予約)

期日：3月14日(土)

集合：午前6時20分、JR大宮駅西口ソニッ  
クシティ前広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

解散：当日午後7時頃、JR大宮駅西口。

費用：5,000円の予定(往復バス代、保険料な  
ど)。過不足の場合は当日精算。参加人員  
数により費用の増減があります。

定員：30名(先着順、当支部会員優先最少催  
行人員25名)、24名以下の場合は現地集  
合、現地解散に変更して実施します。

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢(保  
険に必要)、性別、電話番号を明記して、  
榎本秀和  
まで。

担当：小林(み)、榎本(秀)、青木

見どころ：海鳥は城ヶ島が熱い！ここ数年、  
にわかに注目を集めているのが城ヶ島。  
距離はあるけれど、沖行く海鳥を陸上か  
ら観察できるのが魅力です。しかもカン  
ムリウミスズメの出現率は3月が一番！





## 行事報告

07年12月15日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：50名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカバン オオバン キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外：ガビチョウ)

(喜多峻次)

08年7月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

新井浩、池田泰石、海老原教子、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

7月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：43名 天気：晴

カワウ ダイサギ カルガモ チョウゲンボウ コチドリ クサシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) (番外：ドバト) 前日に梅雨も終わり暑い中の探鳥会。水分補給に気をつけながら鳥たちを探す。この時季鳥は少ないが逆にこの時季でなければ見られないこともある。それは今年生まれた雛たちが大きくなり、親といっしょに飛び回っている姿である。今回もカルガモの親子、ハクセキレイの若鳥、ヒヨドリの若鳥、シジュウカラの親子、ムクドリの若鳥、ハシボソガラスの親子などが見られた。この子供たちも餌の取り方を覚え、やがて厳しい冬を越さなければならぬ。来年夏の探鳥会では親となって我々を楽しませてくれることを期待したい。春夏秋冬、鳥の楽しみ方はあることを教えてもらった探鳥会であった。(青木正俊)

7月27日(日) 狭山市 入間川

参加：32名 天気：曇

カイツブリ カワウ ササゴイ コサギ カルガモ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) みどころを「サギの仲間5種を探す」としたが、結果は、コサギとササゴイの2種のみ。しかも、ササゴイは一部の人しか見られなかった。ダイサギとアオサギはよく出てくれるのだが、今回はお休み。以前よく見られたゴイスギは最近ほとんど見られなくなってしまった。(長谷部謙二)

8月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：42名 天気：晴

アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト ツバメ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (16種) (番外：ガビチョウ) 野鳥も夏休み？ 声も姿も少ない。コジュケイ親子6羽が観察路を横断するのを全員で観察できたのは幸運。昆虫好きのサブリーダーの指導で、珍しい昆虫を皆で観察した。①クズの花に擬態したウラギンシジミの幼虫。色も形もクズの蕾そのもの。②アケビの蔓にじっとぶら下がっているアケビコノハの幼虫。へびのようなシャチホコのような姿で、皆ビックリ。③優雅に飛翔するナガサキアゲハの成虫。温暖化の影響？ 喜んでばかりもいられない。……などなど。(浅見 徹)

8月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ ソリハシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) (番外：ガビチョウ) 例年酷暑の8月の大麻生。しかし、スタートする頃には広く雲が広がり日射を遮ってくれた。土手の上では比較的涼しい風が流れていた。ほっとした気持ちになる。そんな中、ツバメが気持ちよさそうに飛び交い、ホオジロが随所で元気にさえずっていた。河原に出るとサギ類の

んびりと採餌していた。鳥合わせ直前になってソリハシギが出た。渡り途中で栄養補給に忙しそうだった。皆がじっくり観察でき、大いに盛り上がった。(中里裕一)

8月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：13名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、千野安以、手塚正義、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

8月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：58名 天気：曇

カワウ ダイサギ カルガモ コジュケイ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 夏の探鳥会は暑さ対策が大切だが、今回は、曇り空で、涼しい探鳥会だった。カワセミが、工事の終わった芝川の岸、赤いポールに止まっていて、全員にサービスした。担当のリーダーも13名全員が揃い、参加者にゆっくり鳥見を指導出来た。三室は親切ですよ。(楠見邦博)

8月24日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：13名 天気：曇

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ハジロコチドリ ダイゼン ミヤコドリ キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ セッカ スズメ ハシボソガラス (30種) (番外：ドバト) 曇で参加者は少なかった。海辺に出たが、満潮のせいか鳥数が少ない。東防波堤に行くとハジロカイツブリの夏羽、スズガモ。先の方の防波堤にミヤコドリ数十羽。ミユビシギ200羽位、足もしっかり見えた。その他、シギ、カモメ等多数も間近に見えた。(佐久間博文)

8月31日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：49名 天気：曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ

ギ カルガモ オオタカ ツミ バン キョウジョシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト) 驚くほどシギ・チドリの少ない、珍しい谷津干潟になってしまった。前の1週間ほど青潮が続いて底生生物がかなり死滅したようだ。集合前にチョウゲンボウ、本番中にツミとオオタカ、解散後にはトビ、ハヤブサが出現して、なけなしのシギ・チドリまで飛んで行ってしまった。(杉本秀樹)

9月7日(日) 第22回リーダー研修会

参加：32名 天気：晴

北本市の埼玉県自然学習センターにて開催。本年度のリーダー研修会は今までとは趣を変え、簡易救急法の講習会を行った。9時30分から簡単なオリエンテーションの後、日本赤十字社埼玉県支部の救急法指導員により、三角巾を利用した怪我の手当て方法、急病人の介護などの実技を中心に午前中2時間半の講習。午後からは、恒例の自己紹介の後、支部の組織の説明や、探鳥会における注意事項等の確認を行い、4時30分に研修会を終了した。終了後、藤掛支部長より、山田東二(さいたま市)、進士悦行(春日部市)、茂木幸蔵(行田市)、水谷真人(東村山市)の4名に、リーダーの証である腕章が渡された。(橋口長和)

9月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：44名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ ノスリ イソシギ キジバト コゲラ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：ドバト) 暑さも少しは和らいで来たので久しぶりに明戸堰に向かう。明戸堰の工事は完了したが、引き続き川床工事が来年3月まで行われる様で、フェンスに囲まれていて鳥は見にくかった。土手下の田んぼでは電線にショウドウツバメの群れが並んで止まっていて、胸羽の模様を皆でゆっくり観察できた。(大澤 祐)

## 連絡帳

### ●鳥インフルエンザに冷静な認識を

昨年 11 月 15 日開催された全国ブロック・支部連絡会で、金井裕財団(本部)主席研究員は、鳥インフルエンザに関する野鳥のリスク評価として、

- 1, 野鳥が高病原性ウイルスを持っている確率はどの程度か。→近隣地区での発生がなければ、ほとんど無い。
- 2, 野鳥から高病原性ウイルスが感染する確率はどの程度か。→家禽に対しては、水鳥と家禽との間に何か介在した場合に可能性があるが、かなり低い。人に対しては、無視しても良い程度。

と発表しました。これは世界の科学者のほぼ一致した見解だろうとのこと。とは言え、例えば野鳥の死体を見つけた場合、素手で触るなどは避けなければなりません。冷静な認識、賢明な対処が必要です。

### ●さいたま市緑区環境講演会

主催:緑区環境講演会実行委員会  
後援:日本野鳥の会埼玉県支部ほか  
期日:2月1日(日) 午後2時~4時 30 分  
会場:さいたま市プラザイースト  
講演会:「見沼地域の自然環境と文化的景観」(青木義修氏=元文化財保護行政担当、現緑区歴史の会会長ほか)  
演奏会:「シャオ・ロンと音楽仲間」(中国琵琶、二胡、揚琴)  
入場:無料 定員:250 名(先着順)  
問合せ申込み:同委員会(緑区コミュニティ課内)  
TEL 048-712-1130 へ。

### ●栃木県支部 渡良瀬遊水池ワシ・タカ調査

ワシ・タカカウントは渡良瀬遊水池がラムサール条約登録基準を満たす根拠(猛禽類の重要な越冬地)となるデータを得るのにも役立つ調査です。近隣他支部からの参加を募っています。

期日:2月1日(日) 延期の場合は2月7日(土)  
集合時間:午前9時 渡良瀬遊水池会館駐車場  
調査時間:午前10時~12時  
集計作業:午後1時~2時  
問合せ:栃木県支部 TEL 028-625-4051

### ●ごめんなさいコーナー

1月号7ページ、1月4日ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会担当者欄に、メインリーダー杉本秀樹の名前が抜けていました。

### ●会員数は

1月5日現在 2,189 人です。

## 活動と予定

12月13日(土) 1月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・藤掛保司)。  
12月21日(日) 役員会(司会:藤掛保司、各部の報告・本部行事で配布した探鳥会案内への対応・年末講演会準備・その他)。  
12月22日(月)「支部報だけの会員」に向けて1月号を発送(倉林宗太郎)。

### ●事務局の予定

2月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。  
2月14日(土) 2月号校正(午後4時から)。  
2月15日(日) 役員会(午後4時から)。  
2月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

## 編集後記

年末講演会の影響で、鳥の図鑑を何冊持っているのか調べてみた。70+である。しかし、最近購入した『アブラムシ入門図鑑』などを併せると、狭い部屋の中で3メートルほどに繁殖している(山部)。

しらこぼと 2009 年2月号(第 298 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部  
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>  
編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)  
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社